



古今和歌集



鳴門中将物語考證

提要



鳴門中将物語一名なる井物語なる作者なりび時代はまむつに志まごころ然ど
 不^レなる事思ふは此物語の未^レ乃^レ詞よこの後嵯峨院云々と云ふ文永はるる
 一 風葉集 この集文永八年より後 なり文永八年の嵯峨院崩御の事あり 論をまゝに びさまど乳母まよ このまよの文中は
 後嵯峨院崩御より坊の作なる事 北方のうらえんが南北朝 のころは書なるべし よ人然つゝ人のことごとく中下三つあるものにて 後免下はふものなど
 へいといこへ休なよ井といふものをあらんといへ女房のいへの本あをきく屋きくなる
 三月の鞠の事なる事此あはれなる事この物といふことなる事いふことこのこといふおかく
 三月の鞠の事なる事此あはれなる事この物といふことなる事いふことこのこといふおかく

とうやまなやしもひまは後嵯峨院の内好つゝもかたれざりしと見え見えも案
まゝこの物語を古今著聞集第八の巻よの巻よりとせしむるべしと見えぐいゝやとされば
これ集の作者楊成季が自序に建長六年と見えも案建長は後深草院の御宇
なまは内父後嵯峨院のまゝ大上天皇の御宇と見えも案一はと見えも案は後深草院
と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
まゝと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
文永と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
さまはと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
くはと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
こはと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
又と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
此の物語は一名なる井物語といふもいへるもこの中にも詞も見えも案は又内記も

鳴戸提要一

あはれと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
なやまあはれと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
乳母まゝと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
井とのいひも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
鳴門中ねと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
今も案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
か見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
校合と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
本書は主上と見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
後いづと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は
院の内在位のほと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案はと見えも案は

平家物語卷四云、ゆり花やうり
増鏡巻六云、ゆり花やうり

源氏浮舟云、ゆり花やうり
遊仙窟云、ゆり花やうり

公卿家傳云、兼經公實公三男、兼元四年
五月四日誕生、延應二年十二月十四日任太政大
臣、正嘉三年五月四日薨

同書云、良實公道家次男、建保四年誕生
嘉祿四年七月廿日轉左大臣、文應二年四月
廿九日薨、關白文永七年十月廿九日薨

同書云、定雅公忠經公三男、建保六年誕生
建長二年十二月任大納言、同四年十月十日
任右大臣、永仁二年二月廿日薨

公卿補任、藤原公相右大臣、實良氏三男
曆仁二年十月廿日任推大納言、文應元年
十二月十五日任太政大臣、文永四年十月十二日
薨

公卿家傳云、實雄公太政大臣、公經公三男
建保五年誕生、仁治三年三月七日任推大納
言、文應二年三月廿日任左大臣、文永十年八月
十六日薨

同書云、通成公推大納言、通方卿二男、寛元
五年十二月八日任推中納言、文永六年四月
廿三日任内大臣、弘安九年十二月廿三日薨

狹衣一
白氏文集卷十二、長恨歌云、遂教方士殷
勤、亂排空、馭氣奔、駕電昇天、地求之遍
上窮碧落下黃泉、兩處茫茫、皆不見、忽聞
海上有仙山、云云、仙山とあり、蓬萊と
あり、三島とあり、長恨歌の全文とて、一
新撰字鏡云、蓬萊、山名、徐福の
濱、松中納言物語云、蓬萊、山名、

後ハ著おのつゝくまありてせりあひしく心ごりま

たことおぞ侍りたるよある河辺兼經
良實偉殿二条殿花山院

大納言定雅大宮大納言公相権大納言實雄著中納言通成などや

能人ともありては極侍まじきものをおお

やうおおえりてきたまはびものをおお

めすさあわくたわのめがらねまを河邊殿

のりけをきめりちやちやまみはいでま

ことおちちのうらみゆるこゝろぬやまのりや

やよここのまをきめりおそく侍るなるたづ

侍りたるよある河辺権大納言實雄著偉殿二条殿花山院

是を教のちたなれをさそがやせりぬべー著やとせりあどおこぬなるま
とりのちをばあをせあまは内もまこ
らあせまへども群興せとまのあ
そらにのちまをましくひをたましぬそのち
花人へのちぬも士なかりああといと
えありきつテ神侍三著いの案やせどもこのひ
那ーおもひまむく文平ち中侍所いそ
このころ著
切世小をまをれあろをもさして推名家まを
しうのちあはれまをいぬのちあんとおもひ
まへのちあむのしとくひ侍るなるまのち
これを内お承もおよべまゆるしとあ大

云々バとあり下はあり一を誤りて上はハハ
つらと云々

平家物語卷二云さうくーうーうー
増鏡卷十云このまは放波又そ片が
義經記卷三云さうくーうーうー
ひぬくーうーうーのまて云く

萬葉卷二長歌云秋山下部留妹奈用
竹乃騰遠依子等者何方念居可云
後撰卷五
よまへぬものこらひつううは
山家集
これらなう一ぬまのうらみあつたを
おさへ一ぬのふがとて

ゆく女房とぬおせらるるを見あひまぬくせつろ
長りてゆくま推糸に付れど天氣あく侍の志のく
のこせのうきと奏ーヲ群とゆくわがこひてきことえ
あることなきとやうて奏ーヲ群とゆくわがこひてきことえ
しく神妙なりこのまへくまぬくびをふのくせで
行方をたーこのま見えヲ群おきてゆせと仰らるるほどに
涙をつまびたさきなりぬこ女どもひらり車者ひと車めて
このへるあり花人まが男はまこあ中まれどもあて
さのくーま女をつけて見えぬを三糸の川に
おあつてか少将とゆふ人の歌なりまねすーを
奏すれがやうてあるまあま

鳴門

あごま見えーまううつうくれ林群おあつて
まぶふなをさうーまここぬられまこのなういど
まのりお葉花人ぬまをたなまらめてこのぬよ
もて行よととある人なましヲ群まづううい
なげくよぬ使ハゆはなく著ぬなくぬはしとせむれを
いのちもかられあくとと思ひてありかまよ
このゆがさおさひがままづうういけまゆいて
男の身あくるたおなくまぬくせんヲ群ぬま
阿孝あなヲ群こといさめんぬ使なるべきこと
人よありてくることなる世のまをむくのまをうけり
ひとぬまヲ群あまあまぬれこくまぬぬと

女院小傳云上東門院藤彰子一條后
後一條後朱雀母法成寺閨白第一女
母左大臣雅信公第一女長保二年二月
十五日爲中宮萬壽三年正月十九日院号
云云

蜻蛉日記云りんごのけきまもと
あまのれんごのけきまもと
玉葉恋二 圓融院法製
あまのれんごのけきまもと

源氏桐壺云りんごのけきまもと
あまのれんごのけきまもと
禁秘御抄云奏時事上古随陰陽寮漏

刻券之近代指計藏人仰之丑机以後爲
明日分云
侍中群要卷四云夜行事亥子刻左近勳
丑寅刻右近也中重兵衛勤之云云
漢書外戚傳云孝武李夫人本以宿進
初夫人元延年性知音善歌舞武帝愛之
延年行起舞歌曰北方有佳人絕世而獨
立顧傾人城再顧傾人國寧不知傾
城與傾國佳人難再得上嘆曰善世豈
有此人乎平陽主曰言延年有女弟上乃
召見之云云
楊太真外傳云楊貴妃小字玉環弘農華
陰人也後徙居蒲州永樂之獨頭村父玄
琰蜀州司戶貴妃生於蜀開元三年正月
歸于壽邸二十八年玄宗幸溫泉宮使高
力士取楊氏女於壽邸度爲女道士號太
真住內太真宮是月於鳳凰園冊太真
宮女道士楊氏爲貴妃上喜甚謂後宮人
曰朕得楊貴妃如得王寶也乃製曲子
曰得寶子云云唐書后妃傳中云云
白氏長恨歌云後宮佳麗三千人三千寵
愛在一人云云

らんやまぐさるほく月のこよまといふまを
うりせのきこまわをきりるるはうらなまへ
月といふもいふまをいふまはるるはうらなまへ
とらえりままこ人けりしるるはうらなまへ
女いともな繁さるるはうらなまへ
さうらひるるがまのりいづまわりの繁けりるる
らまのりいづまわりの繁けりるるはうらなまへ
はりなんとゆれをたうちよげよおぼるる
あまのれんごのけきまもと
あまのれんごのけきまもと
あまのれんごのけきまもと
あまのれんごのけきまもと

鳴門六

ほどは花人志のびやうのうらな女まあり侍るうらな
ーやうはばりまうらおぼるるはうらな
けを漢武の孝夫人あひ玄宗の楊貴妃をえ
らまのりいづまわりの繁けりるるはうらな
もこのうらなけりるるはうらな
あけやまをいふまをいふまはるるはうらな
ふらな女方のありまをいふまをいふまはるるはうらな
らまのりいづまわりの繁けりるるはうらな
やうらな三子の列ありまをいふまをいふまはるるはうらな
まのりいづまわりの繁けりるるはうらな

延喜土計式云阿波國^中籍^籍籍年魚
煮^煮年魚雜魚籍海藻鹿角菜^菜凝海

忠見集

誹諧毛吹草云阿波鳴門和布

萬葉卷十六云角島之迫門乃^推海藻者

人之共荒有之可^村吾共者和海藻

三國志諸葛亮傳云先主遠詣亮凡三往

乃見因屏人與計事善之於是情好日密

關羽張飛等不悅先主曰孤之有孔明猶魚

之有水也願勿^後言羽飛乃上云

說苑復恩篇云楚莊王賜群臣酒日暮酒酣燈

燭滅乃有^又引美人之衣者美人援袖其冠

告曰今日者燭滅有^引妾衣者妾接得其冠

失礼奈何欲^顯婦人之節而辱士子乃命左右

曰今日與寡人飲不^絕冠者不^懼群臣

百有餘人皆^絕去其冠而^次卒盡懼

而罷云云^の又^韓詩外傳云^{云々}

十割抄云唐の太宗の^とつ^らけ^られ^る

女と^は契^れる^者あり^と魏徵^云

唐書魏徵傳云鄭仁基息女美而才高

建請為^元華^六冊^具言許聘^矣徵諫曰

陛下處^臺榭則^欲民有^棟宇^食膏^梁則

まゆ^のよなげ^き中^てさ^ゆら^ぶあ^のく^たな
さ^けや^ても^ほろ^ど後^津を^のつ^まぬ^男の^こら^ひ
おも^なり^ぬ海^一ま^ごこ^のま^あめ^く人^のし^こく^ある^る
ぬ^ほど^なら^ばさ^えば^め一^ふも^あら^じぶ^じき^いや
ま^やら^れば^つひ^よも^あら^じの^まま^のい^かへ^まし^て何^ん
思^びて^めさ^まさ^らり^おし^お將^ハ臣^若なり^らる^を
あ^らぬ^こに^つあ^てて^おし^おか^され^てあ^らづ^い
内^なさ^けを^いけ^りて^進習^の人^うあ^らよ^らん^こ
ら^まし^など^して^程なく^中お^よな^さま^しよ^らま^つ
む^とま^はれ^どお^のづ^つ世^もも^はれ^らる^こら^いん^の
口^はさ^らな^さら^るま^はれ^らる^乃も^てあ^らづ^いま^て

鳴門

鳴門^門中^中お^よな^さま^しは^らる^推海藻

お^よな^さま^しは^らる^和布

お^よな^さま^しは^らる^魚と^はれ^どと

上^とら^れる^およ^なさ^まし^はら^る

お^よな^さま^しは^らる^楚の^莊王^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

お^よな^さま^しは^らる^唐の^太宗^とす^き

欲民有飽適願頌仰則欲民有室家今
鄭已約昏陸一求之豈為父母意帝痛
自非印記齊冊云云一貞觀政要直
諫篇小も云云

禮記檀弓云事君有犯而無隱左右就養
有方云云

うけ中ねのゆるしやうるなとけのいろいづき
ゆまことよ 優れもありがうしやあーいぬゆ
ついでなまものしやあーとーはやーいぬゆ
ごとこのるいしるふなくてきさのしよなとけふ
いぬゆあまのきぎきよるさとあしーいぬゆ
いぬゆあまのきぎきよるさとあしーいぬゆ

